

Q1 授業をする立場から、対面授業と比較した場合のオンライン授業のメリットとして感じることを教えてください。

インターネット授業配信に関する教職員アンケート結果

アンケートへのご協力ありがとうございました。

皆様からご回答いただいたアンケート結果を一覧にして公表いたします。なお、整理のため、勝手に分類させていただいております。意図しない分類がされている場合は総務部までご連絡ください。

Q1	授業をする立場から、対面授業と比較した場合のオンライン授業のメリットとして感じることを教えてください。(自由記載)
大人数	より多くの生徒たちに対して一様に話ができること。
	大人数を相手に一斉授業ができる。生徒が発言しやすい(他人の目を気にしないから)。
	教室のキャパが関係なくなるので、全クラス一斉授業を実施することができる。
	同じ内容の授業であれば複数クラス同時にできる。
	大人数に一斉に授業ができる。
	全クラスに同じ内容で同じ進度で授業が行えるのが良かったと思う。
	大人数で一括で授業ができる。
	一度の授業で多くの生徒に教えることができる。
	(複数クラス合同で行う場合)同じ内容の授業を少ない回数で済ませられる
気象警報	警報など、登校できない日でも実施できること。
	警報などトラブルがあっても授業を行うことができる。
	クオリティは低くなりますが、生徒が登校できない日にも授業は無しにならないこと。
コミュニケーション	チャット機能を使うと、授業中の質問が普段の授業よりもしやすいと感じる生徒もいる。
	アンケート/クイックレスポンス機能で挙手発言発問への返答を恥ずかしがる生徒も授業に参加しやすくなる。
	発問の際、文字によるやりとりで、会話によるやりとりよりも多くの生徒から同時並行的に解答を収集することができる。→理解度を計りやすい
	リアルタイムでの意見共有がしやすい。例えば生徒の意見を forms で集め、その授業中にフィードバック可能なので、関心の高いうちに扱うことができる。
	他クラスとの交流が可能。普段交流のない A コースと B コースが教え合うことが出来る。
	出席を取る時に個々の生徒の表情を画面で確認できること。
省プリント	プリントなどをデジタルで配付することで、紛失などのトラブルが避けられること。
	教材の印刷がないこと。
	紙の配布が不要である。
	教材(演習プリント等)を印刷せずに済む
	用紙を印刷する手間がないし、用紙代のコストもかからない。(生徒の負担にはなりますが。)
	プリントやテストを印刷しないので、紙の消費量が減ったこと。
	ペーパーレス化が可能。
プリントの消費量が少なくなる	

Q1 授業をする立場から、対面授業と比較した場合のオンライン授業のメリットとして感じることを教えて下さい。

効果的	圧倒的な伝わりやすさ。
	教授者の技量が対面より問われない。
	ダンスなど普段やらないようなカリキュラムが実施できる。
	家庭科の教科であれば、調理や実験などを手元カメラで見てもらえるので、実際の授業よりも実技の習得がしやすい点です。
	問題演習の解説などは、板書よりも、直接伝えられる感じはあります。
	歌の授業ができる(音楽)
	音声についても同様で、各自のデバイスからイヤホン再生できるため一斉に教室で流すよりクリアに聞こえる。
	予めパワポ資料を用意するので、その日にやる学習の要点が分かる。
効率的	板書計画をファイルで作成して共有することで、黒板に書いたり消したりという手間と時間が省けること。
	学習習慣の確立している生徒にたいしては対面授業よりも、効率的である。
	板書時間の効率さ。
	時間のゆとり
	知識の伝達を効率よく行える点。
	入試では出てこないような定理の証明などは映像のほうが楽でした。
	授業進度の予測を立てやすい。
	登校時間が自学にあてられる。
	私語を注意することなどによる授業の中断がない。
	制パソコンや制携帯などを必然的に使うため、フォームズのような授業補助のアプリケーションへの連携がしやすい。対面授業で例外的にPCや制携帯を用いたアプリケーションでの作業などを取り入れようとしても、持参していない生徒が一人いるだけで2パターンの対応をしなければならない。
	画面共有をすることによって、あらかじめ板書を準備できるので、授業時間の短縮になる。
	板書 pdf を配布することで、生徒の板書時間を対面より気にせずすんだ。
	人数や場所を問わず授業講座質問対応ができること。
	特にないが、授業範囲は比較的進めることができたとは思う。
	対面授業と比べて、生徒を当てることが少ない分、授業の進みが早くなる。
	保健の授業に関しては、パワーポイントなどを活用できるため、通常より早いスピードで授業を進めることができました。
	時間を有効に使うことができました(動画を見る時間と、Zoomで直接話す時間を区切ることができるため)。
	板書時間が削減されるため効率的な授業になる。
プリントなどのファイルを生徒に自由に簡単に配信することが出来る。	
ネット上の教材などを簡単に生徒に提示することが出来る。	
いつでも質問対応ができる。	

Q1 授業をする立場から、対面授業と比較した場合のオンライン授業のメリットとして感じることを教えて下さい。

視覚効果	授業内容に関するデジタル資料を見せるのは簡単でした。
	英文に関連する動画を流すことでより背景を理解することができる。
	パワーポイントが使いやすい
	パワーポイント等の画面を見せる場合、対面では座席によって見えにくい生徒もいますが、オンラインでは皆が等しく同じものを見ることができる場所はメリットだと思いました。
	画像や図などを全員同じ状態で共有できるため、強調したいところ、よく見てほしいところなどを示しやすい。
	タブレットのノートアプリでは円などの図形がきれいに描け、投げ縄ツールなどによって扱いやすい。
	動画やスライドなどを見せるのが容易である。
	画面を共有することで、図などを用いて説明する際の効率が、板書よりもよいこと。
	画面共有ができる。
	画面共有で手元の作業を写したり、資料を参照できたりする点。
	軌跡の問題において黒板では表現の難しい動く図形を専用のアプリで共有することができました。
	映像を用いた授業がプロジェクターやスクリーンなどの準備が不要なためやりやすかったです。
	図表の提示などが容易である。
	現代文で、「本文」を画面共有できることが素晴らしかった。本文の解答使用箇所の説明は、対面授業の板書では難しいのですが、実際の教師の本文と作業方法を見せることができ、「解き方がより理解できた」という声も多かったです。
	Youtube やインターネット記事なども画面共有できるため、単元に適切な学習動画ニュース記事なども気軽に取り入れられる。
	PPTなどを用いると、視覚資料を使いやすい。
	スライドを作成し、画面共有をした授業を行った。生徒には黒板を使用する授業よりは、絵や画像などによりわかりやすかったと思う。
	プリンタ内の重要箇所に関線を引くなど、手元を共有しながら授業を進行できる
	美術の授業内で使用する絵画資料について、画面共有で済むので配布の手間がない。何度も書き込めて消せる。あるいは二つの絵を不透明度を下げて重ねるなどの加工も見やすい。
	パワーポイントと画面共有できる。パワーポイントは写真などを入れられるほか、アニメーションがあるので視覚的な理解がしやすい。
「資料集のこのページのこの写真見て」などの指示も、対面では通っていないことがあるので、スライドに貼ってしまった方が話は伝わりやすいでしょう。	
実験や動画を見せやすい。	
iPad を用いたが、書き込みが手元でできるので、作図がしやすい。また、教科書の図をスキャンし、直接の書き込みができる。	
視覚的な教材などが見せやすいこと。	

Q1 授業をする立場から、対面授業と比較した場合のオンライン授業のメリットとして感じることを教えて下さい。

視覚効果	パワーポイントで画像を使いながら授業したためか視覚的に理解しやすい関心を持ちやすい授業を展開しやすかったです。
	映像を見せたりグラフを自動的に動かせたりなど、視覚に訴えることができるようになる点。
	画面共有などによって、様々な資料を見せることができる。
	iPad を使った画面共有によって、生徒に教師の手元を見せることができ、黒板よりも教師の思考プロセスをより明確に伝えることができる点。
	動画やパワーポイントを使って授業を行えること。
	図版などの拡大したものを見せられるので、理解が深まる
	オンラインのクイズ大会など普段の授業ではできないような挑戦もできました。地球の成り立ちや緯度や経度など短い動画を入れることで、口で説明するよりも可視的に伝えることができました。また、当初は「新しいことをやっている」「特別なことをやっている」という生徒側の特別感があったのではないかと思います。
	映像が各自のデバイスで見れるため視覚的な説明が可能。
	パワポ資料をカラフルにしたり、イラストをつけたりできて、黒板で出来ないことができる。
	動画や写真を見せたりしやすい
不登校	不登校の子が参加しやすいこと。
	不登校の生徒が頑張って授業を受ける傾向にあること
	登校できない生徒が出席できる
	休みがちな生徒もオンライン授業だと出席するので、その点は良かった。
	中学校時代長欠生であった生徒も、オンライン授業がリハビリとなったのか、登校が始まって以降も出席できている生徒が複数いること。
	不登校傾向の生徒が授業を受けやすいようだった点。
	授業そのものにおいて、純粋にメリットといえるようなものはないと感じる。ただ、集団や対面を嫌う不登校タイプの生徒さんにはいいのかもしれない。
	欠席、遅刻が多い生徒が授業に参加しやすくなったこと。
	登校が難しい生徒でも勉強に集中することができる。

Q1 授業をする立場から、対面授業と比較した場合のオンライン授業のメリットとして感じることを教えて下さい。

録画・保存	パワポのスライドを使用していたので、保存しやすい。
	自分のあいている時間に録画をすることが可能である
	録画機能。
	欠席者も後から映像を繰り返し見られること。
	動画として記録して残すことができること。
	録画を利用することができる。
	動画配信を行う事によって、復習を自発的に行える。
	授業内容を動画として保存することで、生徒が復習をしたいときに自由に閲覧できる環境を整えられること。
	あまりメリットは感じませんが、録画機能とかがあれば、生徒がわからなかったところを2度3度と見ることができるのは対面授業の1発授業にはないメリットかもしれないと思っています。
	録画したものであれば聞き逃した部分を何度も再生して見ることが可能になり、理解できなかった箇所の克服に役立つ。
	録画機能を使って撮った授業の動画であとで生徒が振り返ることができる点
	録画があれば、自分の時間にあわせて学習できる。
	板書を iPad に書き込み、それを画面共有することで授業を行いました。その板書を各授業後に PDF 形式で生徒に配信していました。ノートをとるのを遅れた生徒やその時理解ができなかった生徒がもう一度見直すことができるという意見がありました。
	授業のレコーディングやスライドを提供できるので、後から見直すことができる。
	ライブ配信のメリットはあまり感じないが、あとで録画をあげれば生徒が復習できるので、一部の生徒には内容の定着に役立った様である。
	動画に残ることで、自分も授業で話した内容や使った言葉について正確に確認ができる。
	知識の伝達だけの授業は、録画してストックしておくことで、知識の伝達を動画にて「予習」させ、対面ではディスカッションやさらなる発展的な話を行うことができる。
	録画した場合は、授業の動画を生徒に必要ながあれば何度も見せることができる。
	画面録画したものを Stream にアップすることにより、繰り返し復習に活用してもらえる点。
	授業を動画に残しておくこと(生徒は何回も視聴することができる)
授業動画や作ったパワポ資料が保存できる。	
録画をし、配信することによって繰り返し生徒は復習等に利用することができる。	
何度も見返せるので復習材料としてはいいものになると思う。	
その他	光熱費エアコン代が抑えられる
	欠席者にも授業を届けることができる
	教室ではできないような特別なことをしながら動画が作れる(料理教室を英語で開くような授業をした)
	生徒の安全が確保される

Q2 授業をする立場から、対面授業と比較した場合のオンライン授業のデメリットとして感じることを教えて下さい。

Q2	授業をする立場から、対面授業と比較した場合のオンライン授業のデメリットとして感じることを教えて下さい。(自由記載)
確認テスト	確認テストの実施(漢文などは返り点がつけられないなど Forms でできることに限界がある)。
画質	画質がそこまで良いわけではないこと。 黒板の見づらさがあること
緊張感	対面ならではの臨場感や雰囲気伝わりにくい。 対面ならではの緊張感はないので、知識の定着度合いが悪い印象を受ける。 生徒を能動的に授業に参加させること(板書してもパワーポイントを使っても難しかった)。
集中力	学力の低い生徒はどうしても緊張感や集中力が欠けやすく、ただ座っているだけという状況となり、更なる学力低下を招きやすい。 緊張感にかけ、テレビを見ているような感じがして、授業を受けた気になっていなかったと生徒自身が言っているのを表しているように、オンライン授業の単元の習熟度が芳しくなかった点 オンラインだと集中してきけない生徒も多かったと思います。 多くの生徒が集中できない。 下位生徒はどうしても集中できない。 緊張感がなくなってしまったり、生徒の黒板を写すスピードをリアルタイムで見られないことで授業の到達度に違いがあると感じる。
ネットトラブル	ネットのトラブルで入室できない可能性があること。 体育の授業は動きが多いため固まることがある。 通信の不具合などにより参加できない生徒が発生すること。 家庭の回線状況によって、急に生徒が参加できなくなることがある。安定した授業の提供という意味では、やはりオンライン授業は対面授業に比べて不安定であると感じる。 回線の不具合による欠席や退出への対応が必要になる点。Zoom でビデオをオンにして出席を取るようになった後、「ミーティングがまだ開かれません」「許可されません」など生徒がその点に過敏になっていた点が少し気になりました。休み時間をきちんととれていたのかなと不安です。
通信環境	配信環境や電波などの外的要因に左右されやすい。
配信技術	授業担当者の配信技術の差がある。

Q2 授業をする立場から、対面授業と比較した場合のオンライン授業のデメリットとして感じることを教えてください。

効果的ではない	ふつうなら同じ授業を複数クラスですることにより磨かれる部分もあるが、一度ですべて済んでしまうがために、改善される機会がないこと。
	学習内容の定着率。
	理解度が低い。
	特別教室にある専門用具が使えないこと。
	家では周りに私物が多いため、そちらに気が言ってしまうと集中できない生徒がいると考えられる。
	球技などの対面でしか実施できない種目もある。
	生徒の中で見られているという意識が低く、授業中の集中力が落ちている。
	インタラクティブな取り組みや、成績の評価対象となる確認テストの実施が難しいこと。
	プリント演習など行う際は、対面授業の方は細やかに解説ができるが、オンライン授業では、頭部分、手元など部分的にしか見えないので、補助しにくい。
	全く学校に来ない形態の場合、課題の提出率が低下する。
	グループワークのしにくさ。「ブレイクアウトセッション」では、対面と違って、全班に教員が監督できないので、会話が進まない班もあった。
	家庭かも情報も実技教科なので、グループワークやディスカッションができない。
	定着度が極端に低い。
	実技の授業が難しい。
	プリントが渡せていない状況だと一気に辛くなります。(確認テストも。)
	「映像」として画面を眺めてしまうのか、授業内容の定着率が低く、確認テストの結果が芳しくないこと。
	生徒の書くスピードや指示通りノートをとっているか、英語の授業なので口の動きだけではきちんと音読しているか確認しづらかったです。また、Web 授業では確認テストをforms にて実施していたが、ノート等を書く量が少なかったため登校してからつづりや文法が完全には定着できていないと感じました。
	体育の授業は動きが出るが、ネットワークの関係や zoom がそもそも会議用であることから動きが止まることが多く、伝えたいことが伝わりにくい点、活動に制限がかかる点にデメリットを感じた。
	授業を受けるというより動画を見ているという状況になってしまいやすく、授業内容を定着させることが対面に比べて難しいこと。
	体育の授業に関しては、カリキュラムにそった授業を展開することが難しく、運動不足を解消する応急処置にしかならなかったと感じました。
知識の定着が薄い。	
実技種目では実施内容に偏りがでてしまうように感じた	

Q2 授業をする立場から、対面授業と比較した場合のオンライン授業のデメリットとして感じることを教えて下さい。

コミュニケーション	質問が回収しづらい。空気を読みづらい。目が行き届きにくい。
	全員の反応を見ながら進めることができないため、その場での理解度を把握しづらい。
	生徒に答えさせながらやるとさらにテンポが悪くなること。音読などのアクティビティに無理があること。生徒が質問しづらいこと。
	生徒の様子や反応を細かく見ることが難しい
	生徒の様子を確認しづらい
	実技がメインの教科なので、机間巡視で生徒の進捗状況を見たり、アドバイスしたりという場面を重視します。オンラインでは一人一人の状況が掴みにくいのがデメリットだと感じます。
	机間巡視をしながら、生徒1人1人の理解度を確かめることができないこと。
	生徒の反応がわかりづらいこと。
	生徒への熱意が伝わりにくい。机間巡視ができないため、生徒の進捗状況がわかりづらい。
	意志や思いが伝わることに制限があり。
	生徒一人ひとりの様子を丁寧にみることは不可能なこと。
	巡回をして生徒の出来不出来をリアルタイムで確認できないこと。
	生徒の反応が分かりにくく、理解度がチェックしにくい。
	生徒が隠れて違うことをやっても気づかないこと。
	生徒の状況が正確に把握できない。(これに伴い出欠も厳密には取れない)生徒にあてにくい。生徒の意識を集中させることが十分にはできない。
	生徒の状況の把握がしづらい。ビデオオフだと本当にちゃんと受けているのかわからない。
	机間巡視が出来ないので、生徒がどの程度書けているかが把握しづらい。
	雰囲気作りが難しい。生徒の反応がわかりにくい。生徒との対話が難しい。
	生徒のようすを確認することが難しく、理解度を表情などから察する機会が非常に少ないこと。
	演習中の生徒の答案を観察できないため、どのような躓きが発生しているかを拾い上げられないこと。
オンライン授業だと、理解できているのか、わかったつもりなのかの確認がとれない。	
特に、初めての生徒に対しての授業では、生徒の反応が非常にわかりづらく、授業の強弱、スピードなどを瞬時に判断することができないことがデメリットであると私は感じました。ただ、もっとうまくオンラインを活用することができれば、異なる感想になるかもしれません。	
生徒の手元が見えない	
授業を受けている際に、ふとした疑問が出てきた際に生徒側から発言しにくいような気がします。	
生徒の理解度の確認ができない。	

Q2 授業をする立場から、対面授業と比較した場合のオンライン授業のデメリットとして感じることを教えてください。

コミュニケーション	当てて答えさせることが難しい。
	実習のある教科は生徒がどこでつまづいているか把握しにくい
	生徒の反応が読み取れない。ライブ感がない。
	演習をすることはできますが、解いている最中の様子を見ることができないので定着度の把握が難しかったです。
	生徒の理解度、授業態度を把握することが難しかったです。
	生徒の微妙な反応を感じ取れない。
	生徒の手元が見えない。
	一人一人の生徒に目を届けることが難しい。
	情報の授業において 実習がメインの授業なので、オンラインでの実習を試みましたが、わからない生徒に個人的に教えることができません。進度が早くなり理解できないままになっている生徒がいるのではないかと思います。
	生徒が実際にしっかり授業を受けているかがわからない。
	生徒の反応(理解度)がわかりにくい。
	双方向のやり取りが難しい。生徒は Zoom で発言することに抵抗がある。また、発言とまではいなくても生徒の挙動や性質、特徴、クラスの雰囲気をつかむのに時間がかかる。
	画面外での内職を止める術がない。 初期は学校全体が不慣れであり、上記のような不正が可能であることから各学年ごとにルールを定めていたが、学年により全く異なる、あるいは真逆のルールになっており対応が煩雑になる。
	不適切な挙動(明らかに必要のない時間に制携帯をいじっているなど)が見られた時に、直接事情を聴いたり指導したりすることができない。
	生徒の感触や反応が見えない。イヤホンを使っている生徒もいることや、機械を通すので大きな声を出すのが難しい。つまり声の強弱を通じた表現が困難。
	生徒の手元が見えないのは、本当にやりにくいです。「書いたものを見せてみて」とやれば多少は何とかなるのですが、まどろこしくて仕方ないです。
	授業を受けている生徒の机元を確認しにくい。
	生徒の理解状況を確認しながら、授業がしにくい。
	授業に対する生徒の興味や疲労など、空気が分からない。
	理解できているかのリアクションがわからない。
	黒板での授業の際に、板書のスピードが分からない。
	生徒の反応を常に意識しながらの授業展開が難しいこと。
	机間巡視ができない。生徒の状況把握はかなり難しい。
相手の反応をじかにつかめない。結果自作自演劇に終始してしまう。	
生徒の手元がうつらず、きちんとノートをとれているのかや演習スピードなど反応が読みづらい点。	

Q2 授業をする立場から、対面授業と比較した場合のオンライン授業のデメリットとして感じることを教えて下さい。

コミュニケーション	対面と比べると、生徒の反応が少し伝わりにくい。
	特に中学生に対して対面授業をすると、表情が見えにくいので、本当に分かっているのか不安になります。確認テストを紙ベースでできず、その授業の理解度をすぐに確かめることができないのがデメリットだと思います。また、生徒を指名して問題に答えさせようとしても、機器不良なのか、思ったようにやり取りできないことが多々あり、時間をとってしまうことがありました。
	サボる生徒の監視ができず、生徒間での学力差は広がるように感じました。
	生徒の体の動きが見えずらく、十分に体を動かすことができているかがわからない。
	生徒の反応がわかりにくい
	互いに肌で感じるものが乏しいため、対面程結果は得られない。
	生徒の反応がわかりにくい
	生徒の反応を確認することが難しく、集中度や理解度を計ることが難しかった。
	生徒の反応が見えない。生徒の理解度が分からず、進度が一方的になってしまう。生徒の回線が悪いと発言させるために当てても反応がなく、気まずい状態になる。確認テストをアサイメント等で集めた場合記録を保存する手間がかかって大変。
	生徒間のつながりを作れない、ネット接続環境に振り回される、実際に授業に取り組んでいるかを確認することが難しい。
	生徒の解答具合が分かりにくいことや、オンタイムで全員の反応を確認できないことがデメリットだと感じました。
	生徒の理解度を確認することが出来ない。
	生徒の様子を見ながら授業が出来ないので、引っかかっている生徒のフォローや、間違えているパターンを紹介したりすることが出来ない。
	授業のペースが早くなったり、遅くなったり、生徒には全く合わせられない。
	生徒が他の生徒と切磋琢磨しながらという面が難しい。休み時間に何気なく話すことでわからない問題への焦燥感や孤独感が軽減されるものだが、そのあたりが難しい。
	生徒が手元で何をしているかわからない。
	生徒の習得状況の把握が難しい。

Q2 授業をする立場から、対面授業と比較した場合のオンライン授業のデメリットとして感じることを教えてください。

非効率	パワポスライドでは、対面授業時の少なくとも4～5倍の準備時間がかかる。
	パワーポイントの準備に時間がかかること。PDFファイルに書き込む形式でも行ったが、その場合は少し操作性が悪く、授業のテンポが良くないこと。より声を張ってゆっくり話す必要があること。進みが遅いこと。提出物のチェックに膨大な時間がかかること。
	学習習慣の確立していない生徒にたいしては対面授業よりも、効率的でない。
	出席の確認にやや時間がかかることや、授業中の問いかけに対して、生徒の返事が返ってくるまでに少しタイムラグがあること。
	実験などの録画や配信は1人で行うことは不可能であり、また自宅では行えるものではない
	生徒全員共通の素材の配布ができないこと。
	動画配信をしなくても、自分で録画をし後で見れば良いと思ってしまう生徒がいる。
	小テストなどをする場合、答案をデータで送ってもらおうとチェックする時間がかかりかかる。また添削する場合も一人一人の答案を開いて、一人一人メール(チャット)に返すのに時間がかかる。あと緊張感が足りないのか、対面と同じことをしていても学習内容の定着率が悪いように感じました。
その他	生徒のプライバシー。どうしても他の生徒の家の様子などが見えてしまう。
	画面に映りたがらない、画面をオフにしたままの生徒について注意はするが一括りに出席点減点にもできず対応が難しい。
	確認テストの時間の融通をつけられない。
	体育などの実技教科の授業展開や、評価が難しい。

Q3 オンライン授業をするのは初めての経験だった方が多かったと思います。オンライン授業を行う上で最も意識した点を教えてください。

Q3	オンライン授業をするのは初めての経験だった方が多かったと思います。オンライン授業を行う上で最も意識した点を教えてください。
コミュニケーション	生徒との双方向性。
	一方通行になっていないか、生徒に伝わっているかどうかを常に意識しながら行った。
	生徒の反応
	授業がわからなかった生徒がいた場合は Teams のテレビ電話機能を使って教えること。
	生徒たちの交流(意見共有)
	画面共有して動画を流す時間でも、なるべく生徒の画面を巡回して様子をみた。
	各生徒の発音が把握できるよう授業ではなるべく多くの生徒を指名し個々人へ発音テストを行ったことです。
	授業は簡潔にまとめ、生徒自身がその内容を振り返ることのできるような Forms 確認テストを作ったり、英語を発音させたりする時間を作ったこと。
	画面を切り替える際、遅れる生徒が出ないように詳細に声掛けをすること。
	生徒からの反応は無いので少し恥ずかしいですが、なるべく対話方式になる様に意識して行いました。
分からなくてつまずいて抱えてしまう生徒も多いかと思いましたので、質問等があれば気軽にチャットなどで私に質問するように、という旨の話しを多く入れ、生徒が質問しやすい環境をすることで、理解度の保証を図りました。	
課題点検や質問対応など、ウェブ上でも教員生徒間の密なアクセスを確保する点。	
視覚効果	言葉では伝わりにくいと思ったので、文字や画像として目で見て分かるように心がけた
	V1以外はほとんど鑑賞や色彩理論などをメインにしたので、パワーポイントの作り込みに気を遣い、視覚的な効果を意識しました。
	授業内容をすべてスライドに盛り込む。
	パワーポイントを使用しての授業を実施したので、アニメーションを多用し、現象のイメージをできる限りわかりやすくかつ正確に伝えることを意識した。
	なるべくパワポや PDF など資料を作成して、視覚的に分かりやすい授業を心がけました。
	(図表の提示などが容易である。
	画面上でもわかりやすい教材の作成。目が疲れないような教材の工夫。
	スライドは、見やすさ重視で作成しました。
	視覚教材の準備に時間を割き、見てわかりやすい PPT や動画などを作成したこと
普段の授業では見せられない映像や図版を多用することで視覚的にわかりやすいものになるように心がけた。	

Q3 オンライン授業をするのは初めての経験だった方が多かったと思います。オンライン授業を行う上で最も意識した点を教えてください。

集中力	映像授業は長くしない。
	画面を見続けさせることになるので、見た目に飽きないように、多くのスライドを使ってなるべくテンポよく進めていくことを心掛けました。
	長時間画面に向かうことにならないようにすること
	ただ画面を見ているだけでは集中力が切れるだろうと思い、できるだけ作業を取り入れ、メリハリがつくように準備をした。
	テンポと見せ方。
	普段の授業と同じように生徒を指名したりして、緊張感を保てるように工夫をしました。
	退屈しないようにした。画面を見続けて授業を受けるのは苦だと思つたため。
	生徒が長時間受動的に画面を見続けるだけにならないよう、説明動画の視聴と双方向通信での演習を比較的短い間隔で切り替えて、集中力が保たれるように徹底しました。
	親も一緒に見ているだろうと思い、毎日が授業参観の気持ちで行いました。
	いかに生徒をあてるか。
	スクリーンよりもパワーポイントが見やすく視聴環境はよいとはいえ、動画授業が連続するため、生徒が飽きないように画面内容ともに画一的にならないよう配慮した。
	生徒の立場に立って考えると、絶対に苦痛である、と考え、極力画面を見る負担を減らすよう意識しました。
	生徒の疲労と集中力のバランスをとること。
	1つの動画はなるべく5分程度、長くても10分以内に抑え、集中力を保ちやすくする。
	1本の動画を最大15分程度までとしたり、板書の時間をカットしたりして、生徒の集中力を持続できるようにする点。
ハード・ソフト	streamでは見ていない生徒も出ると思い、zoomのリアルタイムにはこだわりました。また生徒にできるだけあてて、緊張感が出るようにしました。
	やはり対面では無いために緊張感が無くなってしまふことを考慮し、意識して生徒への投げかけを行う様にしました。
	PCが故障した生徒がオンライン授業に臨めるように、修理や別端末の手配までのスピード感を意識しました。
	ハード面でのトラブルがないようにそうとう気を使った。
録画・保存	ライブで配信する場合は、画面共有などのチェックを入念に行う。
	機械トラブルで生徒のやる気をなくさせない、待たさないなど。
	接続状況が不安定でも不利のないように、後で各自が見ることのできるパワポを使用した。
	授業に入れなかった生徒及び復習用に動画をOnedrive等に保存すること。

Q3 オンライン授業をするのは初めての経験だった方が多かったと思います。オンライン授業を行う上で最も意識した点を教えて下さい。

<p>進捗</p>	<p>授業数が減少したので、その状況でも進捗を確保できるように努力をしました。</p>
<p>伝え方</p>	<p>授業進度の確保。</p> <p>ゆっくり、丁寧にしゃべる。ポイントは復唱する。</p> <p>いつも以上に何度も反復すること。</p> <p>画面の向こうへの見せ方。</p> <p>ダンス授業の言動。</p> <p>説明の声だけでなく、生徒が後から視てわかりやすいように、準備物の実物、用具の使い方、参考作品など視覚支援に努めた。</p> <p>板書に見やすさ、スピード</p> <p>こちらの伝えたいことを、リリースすることが、授業のすべてではないと意識してやったつもりです。</p> <p>字が見えているか。</p> <p>字を大きくすることと、オンライン授業では、黒板に書いたチョークの色がどの色を使っても白く見えてしまうので、点線や波線を使って、色チョークを区別すること。</p> <p>より興味がわく内容になるように授業内容を組み立てました。</p> <p>伝えたい内容が伝わること</p> <p>無駄のないわかりやすい説明のしかた。</p> <p>オンライン授業は通常の授業と比べて、PCの小さい画面で画質がよいとは言えない状況だったのでそれ以外の要因で更に板書が見辛くなりストレスを感じることをないように意識をしました。iPadで板書をしましたが文字を通常より大きく書いたり、次の板書に移るタイミングをゆっくりにしました。</p> <p>カメラの集音性能がわからないため、話す速さや声の大きさを意識した。</p> <p>字の大きさ、しゃべり方、カメラ視線などに気をつけました。</p> <p>板書声の明瞭さ</p> <p>生徒が聞き直すことができない、すぐに不明点を訴えることができない分、一文一文、一語一語の分かりやすさは気を付けた。</p> <p>動画の画質に限界があるので、板書する文字の大きさや、色づかい、話し方など、対面授業以上に準備を重ね留意して行った。</p> <p>見えている領域がどこまでか。字の大きさなどを</p> <p>自分の画面で確認した点。</p> <p>話し方。画面越しでも聞きやすいスピードを模索した点。</p> <p>要点(ポイント)をしっかりと強調すること。</p> <p>少しでも画面の向こうにいる生徒が受講しやすくなるよう意識した。声の大きさやスピード、チョークで使う色など。</p> <p>声の大きさ、板書の際の数字や文字の大きさ、授業内容をコンパクトにまとめること。</p> <p>分かりやすい解説を心がける</p>

Q3 オンライン授業をするのは初めての経験だった方が多かったと思います。オンライン授業を行う上で最も意識した点を教えてください。

伝え方	わかりやすい板書解説。
	知識事項の伝達授業については、なるべく簡潔に話す。
	上に加え、1つの單元ごとに動画を作成することで、生徒の復習を容易にする。
	楽しく、体を動かすことができるように心がけました。
	聞き取りやすい話し方
	メリハリをつける点。生徒がずっと画面を見ているだけになりがちですので、飽きないように、5分導入、15分授業(録画して編集したもの)、15分ノートまとめ確認テスト、5分クイズ大会と時間を細かく区切ってさまざまなやり方で知識の習得を図りました。
	声の大きさ、板書の見やすさ。
	明瞭な口調で話す。生徒の反応をできる限り確かめながら進める。パワポなどの視覚教材を作る際、効率的にあなるよう工夫。板書の見やすさ。
	パワポ資料がきちんと見えるか、画面共有がきちんと出来ているか、ほぼ講義状態になることもあったので、出来る限り分かりやすく伝えることを最優先に授業を作った。
	対面授業以上に伝わりやすさを意識する(出来ているか、理解しているかその都度確認がしにくいから)、演習を取り入れる。
	なるべく臨場感が出る様に、声をいつも以上に大きく、明るく元気に授業を行う様にしました。
	対面授業で伝える時よりも内容をより凝縮し、時間を短くすること。要するに、コンパクトに伝えること(あまり長い動画は集中も続かず、目も痛いとの声もあったので)
	分かりやすさ
(1つではないのですが)眼精疲労の軽減(パワーポイントを見させたり板書を写させたりする時間と演習問題を解く時間を設ける)と生徒への説明の伝わりやすさ(声の大きさや話すスピード)	
その他	理解度をどう上げるか。
	通常の授業のままではいけないと思い、オンラインならではの良さを活かしたいと考えた。
	さらに、授業を受ける生徒の意識によって定着率が恐ろしくかわることが、最も問題であると思います。
	対面授業では生徒の反応をみながらその場での内容変更が可能であったが、オンラインでは生徒の反応が確認しにくいので、いろいろな反応を想定しながら授業内容を計画しなければならなかったが、いい勉強になった。
	「オンライン授業」の利点を最大限発揮すること。
	2のメリットをできるだけ活かすこと。
	アンケート/クイックレスポンス機能で挙手発言発問への返答を恥ずかしがる生徒も授業に参加しやすくなる。発問の際、文字によるやりとりで、会話によるやりとりよりも多くの生徒から同時並行的に解答を収集することができる。→理解度を計りやすい)
	活動場所や体調不良者がいないかどうかのチェック
オンラインならではの機能(画面の拡大など)を用いるなど、そのメリットを活かす点。	

Q4 オンライン授業を続ける中で、最も苦勞した点を教えて下さい。

Q4	オンライン授業を続ける中で、最も苦勞した点を教えて下さい。
コミュニケーション	生徒同士のコミュニケーション
	思いを伝える事。
	生徒をきめ細やかに見られないこと。
	生徒の反応がわかりづらい点
	また今年初めて行くクラスが多かったので、どのようないいまわしや話しなら興味を引くのかかわかるまで時間がかかった。
	生徒とのコミュニケーションがなかなか取れない点。
時間配分	登校日に授業が入り、オンライン授業の脈絡を汲まない屋外の実技授業と、オンライン授業を並行するための単元や主題、時間の調整。生徒の方が苦勞したかもしれません。
	生徒の活動時間の確保(実技)
	板書と口頭説明と画面書き込みの割合。手段が多い分、情報の整理提示方法に迷いました。
集中力	生徒の集中力を保たせること。
出欠 ・ 提出物	PMTMや提出物のチェックに相当な時間がかかること。
	ストリームであれば、見ていない生徒の特定が出来ないこと。
	提出物の管理。普段であればすぐに生徒のもとに行き出すように伝えられるが、電話をしないと生徒と話せない。そして、未提出が多い生徒程、電話に出ない。
	課題の提出率が低下すること。
	4と同じ。あと出席の確認。
	上記したように、小テストなどをする場合、答案をデータで送ってもらうとチェックする時間がかかりかかる。また添削する場合も一人一人の答案を開いて、一人一人メール(チャット)に返すのに時間がかかる。
	出席しているかどうかのチェック
	添削のやりとりをする際に、生徒は teams の assignment を使い提出できるが、添削したものの返却となると一つずつチャットで写真を送るしか方法がなかったということ。
K2 学年の出席確認(中菌先生と協力した)	
体調	体調管理。
	睡眠時間が慢性的に不足。視力もかなり低下した。
伝え方	生徒の反応が確認しにくいので、ついつい自分のペースで進んでしまい、一人よがりの授業になりがちなのでその点に注意しながらであった。
	ペアを組む活動がしづらかったので終始教員 1 対生徒 150 人の授業になってしまうことが多く、発問内容を難化させるといった工夫に苦勞しました。
	動画の編集の仕方、および話し方(最初だけ)
	(1つには絞れないのですが)見やすい板書を書くことと確認テストの実施(Forms でやれることに限界があり、同じような問題にならないように作問するのが、大変だった)

Q4 オンライン授業を続ける中で、最も苦労した点を教えて下さい。

準備	パワポスライド作成
	スライドの準備に時間がかかりすぎてしまうこと。本来の形式の授業を進めるのはかなり難しいと判断し、1から計画を練りなおしたこと。そのような状況でも、初めて自分が携わる学年ということもあるので、生徒たちに距離を感じさせないように、できるだけ笑いを盛り込むなどの工夫を入れたこと。
	準備時間がすごくかかる。
	生徒達が板書しやすいように PowerPoint の内容をまとめるのが苦労しました。
	すべてが0からのスタートであったこと。
	資料作りなどの授業準備が最も苦労しました。
	スライドや動画の作成が大変であった。
	進捗を確保するため、短時間で効率のよく学習できる授業動画になるよう、何度も撮り直しをしました。
	動画編集です。
	授業準備との闘いであり、いかに臨機応変に動けるかという点には苦労しました。
	授業準備。画面共有分の資料を作ったため、いつも以上に時間がかかったこと。
	初期のころは、機材がそろっていない、手元を移したものの、画質がよくなかったり、かなり試行錯誤しました。また、動画配信型の授業だったので、準備→撮影→チェック→授業→授業のチェックのサイクルを回すのは非常に大変でした。
	確認テスト作成がかなり大変でした。一から問題を考え、Forms に入力し、答えを集計するという作業にかなり時間を取られてしまいました。Stream で配信する授業動画を、できるだけ短くなるよう編集するのも不慣れだったので大変でした。
	色々な機器を使うため、その準備に時間がかかること。
	一度、iPad で黒板を映して授業をしたことがあるが、備え付けの iPad では音声が届かないということで、音声をパソコンの方から出すようにしたら、画面を固定するやり方を知らない生徒から、「他の生徒の画面と一緒に板書が出て来て、大きな画面は真っ黒な状態のままだった」と言われたので、その後はずっと画面共有で授業をやっているが、そうすると、警報が出た時に急にオンライン授業になったら、準備が大変で苦労した。
	撮影を行ってから、加工をし、配信をする。そしてその配信を生徒に伝えるといったように、過程が多いことがとても大変でした。普段の授業よりも時間がかかってしまうのが難点です。
映像の編集	
評価	情報の実習授業。説明をしながら、生徒に実習させ、チャットにて質問に答えるという何役を一人でこなすのはなかなか大変だった。その時間時間の活動が平常点につながるの、それを評価するためのものを作成するのが難しかった。
	生徒の授業態度が分かりにくいので、その把握に苦労した。また、確認テストを Forms のクイズに作り直したり、課題の回収とチェックに手間がかかった。

Q4 オンライン授業を続ける中で、最も苦勞した点を教えて下さい。

ハード・ソフト	配信環境の安定化(回線やソフトが不安定だった時期があった)。
	安定視聴ができるような環境づくり。
	機器の取り扱い。(学年によってスタイルが異なっていたため複数学年を担当する立場としてはなかなか慣れることができなかった)WiFi 環境が整っていない生徒への配慮。
	複雑な動きになると画面が固まるため、苦勞した。
	授業の時間に空いている教室がなく、空き教室を求めてさまようことが何度もありました。
	機器の使い方です。
	気温が高い日や雨の日など、天候によってオンライン授業の調子が悪くなることがなり、音声が届かない、画面がフリーズする、黒板の字が全く見えなくなる等があったため、授業後にビデオカメラで撮り直しをする必要があることが少なくなかったこと。
	使用時間が長くなると、(発信側も受信側も)機器が熱をもって不具合を起こしがちなところ。バッテリーの消耗ですぐに充電切れになること。
	情報機器の取り扱い
	当初は Web 授業の途中で起きたトラブルの対処の仕方がわからず困った。
	パソコンにマイクカメラをつけられず、ブレイクアウトセッション(話し合い)にうまく介入できなかったこと。
	初期は生徒からの「接続できません」トラブルの対応。後半は生徒を当てた際のレスポンスの遅さ。
	動きが止まると想定して、声掛けだけでも生徒に伝わるような動きを考えること。
	学校内において授業録画したり、授業を行ったりする場所の確保。
	機器の扱い
	Zoom や Stream に慣れる点(すぐに慣れたのでそれほど苦勞はありませんでした)。
	パワーポイントや画面の共有の利用。
	映像の乱れ、ネットワーク環境の不安定さ、各教室にデバイスが固定されていないと準備に手間取ることがあった
	著作権にかかるかどうか。
映像に乱れがでる点	
フォロー	生徒の回線が落ちることが多く、話が聞けていない時間を作ってしまうことになり、その子が改めて観ることができるようにすることや、出席状況を掴むことが大変でした。
	画像が途切れたり音が消えてしまったり、授業が止まってしまうのが生徒に申し訳なく、毎回違う原因でトラブルが起こっていたので、1人では解決できず、周りに迷惑をかけてしまうことが多かった。
	生徒他の先生の機材や PC のトラブルのフォローに苦勞しました。
	家庭の Wifi 環境によってはうまく授業に参加できない者や、ID やパスワードを間違えて授業に参加できていない生徒の対応。
	体育の授業に関しては、一人で授業することが難しく、カメラのポジション音響生徒の状況確認等、サポートしてもらおう先生が必要だった点

Q4 オンライン授業を続ける中で、最も苦勞した点を教えて下さい。

理解	生徒の理解度
	生徒の反応、理解度を確認すること。
	確認テストをどうノートを見せずに解かせるか(未解決)。
	わかったつもりをなくすために、何度も同じ単元のプリントを作成した。
	生徒の理解度が分からないので、どこまで掘り下げていいのか、どれくらい飛ばしたらいいかの判断が難しかったです。
	生徒の理解度が分からないので、授業進度が適切か、確認テストのレベルが適切かといった判断。
	上記の通り、生徒の反応が掴みにくく緊張感も生まれにくいため、知識の定着を図ることに苦勞した。
	生徒の様子がかめめないということと、小テストなどを厳格に行うことができない点。
	生徒の理解状況の確認。
	生徒の理解や板書などのペースを読み取ること。
	授業中の生徒の理解度反応をチェックすること。
	知識の定着を図るため、生徒自身の演習を促す点。
その他	特にありません
その他	「オンライン授業」の欠点を最小にすること。

Q5 オンライン授業の経験を重ねる中で、最も改善できたと思われる点を教えて下さい。

Q5	オンライン授業の経験を重ねる中で、最も改善できたと思われる点を教えて下さい。
伝え方	解説時のセリフの練りこみ。
	オンラインでも実施可能な内容と、オンラインではなかなか難しい内容との見極め
	スライド内容、見せ方、喋り方。
	音声。
	思いを伝える事。
	パワーポイントの授業を実施していたので、生徒へ伝える手段が増えたこと。また対面授業になっても、その時々でよりベストなものを選択し、併用して授業を実施するようになったこと。
	資料作りにおいてははじめ pdf 形式で作成していたが、パワポを用いることで「要点」と「授業の流れ」を意識した資料作りをすることができました。しかし、資料共有をすると生徒の顔が見えなくなることが難点です。
	板書の見やすさ
	どのようにすれば一番伝わりやすいのか、動きが固まらないかなど
	内容の改善ができたように考える。
	録画動画と双方向通信での演習のハイブリッド化し、それらのバランスや周期を調整することで、生徒の集中力の低下や理解漏れを防ぐことができました。
	対面ではプリントもその場での修正や複数枚にわたる箇所の指示が簡単であったが、オンラインではそうもいかず一枚のプリントで処理する工夫をした。
	光の反射や、文字の大きさ等の板書
	最初は黒板を用いて授業を行いましたが、iPad を用いて板書をする授業に変えました。見やすさが格段に上がったと思います。
	音声、画質が不安だったので、普段よりも話すスピードを少し落としはっきりと話し、板書の字も大きめにかきました。そのため言葉数を減らし、板書の量も考えたので、授業自体普段よりも精選することができたと思います。
	Forms の確認テストを通じて、生徒から意見を聞き、難しかった部分を再度授業で取り扱うなど、生徒の理解度にあわせた授業進度の改善。
	話し方を少しは改善できたと思う。また、各種の機器の扱いに慣れた。
	問題や資料の提示。
	ノートを取ることを意識したレイアウトを考えたことと、スライドを変える時間を延ばす、あるいは予告した点。
	配信場所を変えたり、使うカメラの数を増やしたりして動きが止まらないようにできた点。
板書の重要事項の強調方法。	
録画した授業を自身で観て編集する中で、意図せず同じことを言っていたり、説明が冗長になっている部分などを見つめ直すことが出来た。これを踏まえて、対面授業においても意識が変わった。	

Q5 オンライン授業の経験を重ねる中で、最も改善できたと思われる点を教えて下さい。

伝え方	生徒の意見も聞きつつ、対面だとできない課題(英語の文を発音させ、音声をアサメントで各自提出させるなど)を考えることができたり、動画で自分の授業を見返す機会が増え授業自体が少しは改善できたかなと思う。
	ビデオのアングルや生徒が見やすい映像をつくること
	スペースが限られているため、部屋の中で効率よく体を動かすプログラムを作ることができた点。
	普段より短い授業時間かつ対面ならではの空気感が伝わりにくいため、無駄のない授業構成をより意識するようになり授業にメリハリがついた。
	要点を整理して教えないと相手に伝わらないので、より扱う教材を掘り下げることが出来た。
	生徒への伝わりやすさ。
	生徒が見やすい板書の見方や黒板の写し方など、何回授業を行い、その中で生徒から意見をもらっていく中で改善して研究することが出来ました。
	休み時間の使い方や授業の中での時間の使い方などを、繰り返し授業を行う中で考える事が出来、問題演習の時間や解答の配信の仕方など、Webであることを生かして授業展開を研究することが出来た。
	内容をコンパクトに伝える授業と、回り道を時にしながらじっくりと理解させ興味を持たせる授業を、使い分けることができるようになった。
	声の大きさや話すスピードと板書やパワーポイントの見やすさ 板書の質やバランス
コミュニケーション	Forms での確認テストの配信や、Teams で課題の割り当てや、回収ができるようになったこと。また、チャット機能を使って授業中に質問を受けて、それに答えたりと双方向のやり取りもできるようになった。
	回数を重ねるごとに、生徒との双方向のやりとりができるようになってきました。
	それなりの双方向性を実現できたか。
	今までの対面授業より、一人一人の表情に気を遣えるようになったこと。
	自分の授業ではやりとりの双方向性。
	一方的な授業ややりとりではなく、双方向でのやりとりを意識した点。
	当初は一方的な講義的な授業が多く、生徒へのフィードバック等もあまり意識できていませんでした。オンライン授業がつづくうちに、最初の5分では優秀ノートの紹介、途中では質疑応答、最後はクイズ大会、授業後は確認テストのフィードバックなど、限られた中での双方向のやり取りを意識できるようになりました。
	志望理由書を書かせる演習の授業ではチャットを使ってその場で質問に対応していくことができた。
	確認テストの充実を図ることができたのではないかなと思う。

Q5 オンライン授業の経験を重ねる中で、最も改善できたと思われる点を教えて下さい。

ハード ・ ソフト	体育の授業で音声と映像のカクつきの改善
	配信技術の向上。
	ストレージの空き容量の確保。
	各学年が機器の使い方を改良していただいたことだと思います。今は、土曜日に教務部が一括でやっておられ、小教室などは手がまわらずのところもありますが、機器の使い方が学校で統一できたことだと思います。
	初めはオンライン授業のやり方がわからず、生徒の音声が入ってしまったり、ミュートになってしまって自分の声が生徒に届いていない等のことがあったが、ホストの権限で生徒をミュートにしたり、生徒からはどう聞こえているかがわかるように、別の端末を参加させることで、音声を確認できるようにして、授業外で時間がとられることが少なくなった。
	機器の操作方法に慣れた。
	周囲の先生方全体では、基礎的なデジタルスキルの向上。
	Zoom の使い方。Teams や Forms の活用方法。
	ブレイクアウトセッションやスポットライト、画面共有など Zoom の各機能を使いこなすこと。
	ZOOM や TEAMS の使い方。
	パソコンなどの周辺機器の操作方法。
	iPad を導入し、音声画質等が安定したので、数学の内容に力を注ぐことができたと思います。
	使用機材がタブレットになったこと。
	ZOOM の仕様が分かるようになってきた。
	機器の扱い
zoom の操作性	
電波などの外的要因への対処による、画質音声などのトラブルの減少。	
設備や機器の設定などの生徒にとって見やすい環境整備	
視覚効果	パワポスライド作成
	見やすいパワーポイントを作ること。
	スライドの見やすさ。また、少人数の場合は対話を交えながら授業ができた。
	生徒にとっては画面と音声のみが情報のすべてなので、解説においてより視覚的に説得力のあるアプローチができるようになった。
	むしろ、慣れてしまうとクオリティーは下がっていたのかもしれませんが。スライドは徐々に洗練されていったかもしれませんが。
	視覚的に興味を持てる授業を展開すること
	映像を見せたりグラフを自動的に動かせたりなど、視覚に訴えることでより記憶に残すことができたという点。

Q5 オンライン授業の経験を重ねる中で、最も改善できたと思われる点を教えて下さい。

緊張感	画面の端に自分も登場させて、一緒に授業に臨んでいるという状況。
効率化	zoom を使う技術、最も効率よく時間をかけずに授業を成立させること。
時間配分	授業の時間配分。
	「教員による説明時間」「生徒に作業させる時間」「確認テストの時間」のバランス。
	授業動画を見て、演習問題を解き、確認テストに答えるという1時間の授業の構成が固まってきました。
	2コマ連続授業のペース配分。回数を重ねるごとに問題演習と解説のサイクルが確立しました。
集中力	生徒の集中できる尺が推測できるようになったこと。
出欠・提出物	効率よく出席をとることができるようになった。(他教員との役割分担)
準備	同じ教科の教員との事前の打ち合わせ。いろいろなことを想定できるようになった。
準備	始めるまでの段取り
準備	板書や確認テスト等、視覚的に生徒に伝わる見返せる教材の準備が上達したと思います。
その他	私は主にパワーポイントを作って授業をしていましたが、そもそもパワーポイントで始めたのは、ネット環境のあらゆる事故などを想定し、またテスト段階で黒板が見つらいことや、声を拾いにくいケースがあることなどが理由でした。分かりやすくしようとしてパワーポイントにしたというよりも、聞いていて苦痛にならない授業形式を自分なりに考えたことによります。しかし、登校日が増えるにつれて準備に無理が出てきたので、結局本来の形式に近い形で、パワーポイントを使わないふつうの授業をオンラインでやることにせざるをえませんでした。iPad を導入していただいたことで音声や映像の面はかなり改善されていたので、問題の多くは解消されましたが、それでも教科の特性上、オンラインだとできることに限界があります。そういった意味で、自分の中で改善できたという点は、特にありません。限られた中でふつうの授業を、最近のオンライン授業ではしているだけです。
	日々改善し、ベストを尽くせたと思います。
	普通には映像授業ができる環境を作ることができた
	特にありません。

Q7 宅勤務期間中に自宅からオンライン授業を配信された先生方にお聞きします。自宅からの授業配信の実施で困った点があれば教えてください。

Q6	在宅勤務期間中に自宅からオンライン授業を配信された先生方にお聞きします。自宅からの授業配信の実施で良かった点があれば教えてください。(自由記載)
感染リスク回避	教員が感染リスクを避けつつも、学校で実施するのと変わらない授業を実施できました。安全を確保した上で授業ができる。スライド共有タイプの授業などは、自宅からでも学校からでもあまり変わりはありません。
効率化	勤務時間の効率化。緊急時対応のオプションとして有効であること。
	時間に余裕があることです。
	魚のからだのつくりを説明するときに学校まで材料などを運ぶ必要がなかったこと
	自宅からでも授業ができたこと。
	通勤時間の短縮
	通勤時間が不要
	通勤時間がなかったこと。職員室から教室までの移動がなかったこと。
	通勤時間の短縮。設備の面では、学校にいた方が便利であった。
	移動時間分の浮いた時間で家事等ができた。
	通勤時間が減り、余計な体力を使わない。
	授業の配信、授業準備に集中できた。
	重い書籍や図録、画材を学校まで運搬しなくてもすぐに参照・使用できる。
	通勤時間が短縮され、授業や SHR にむけてゆっくりと準備できた点。
	通勤時間が省かれること。
	通勤時間がなく、時間を有効活用することができる
自分のペースで仕事をするができる	
通勤時間がない点です。	
準備が出来ていれば、移動する必要がないので楽だった。	
通勤時間がないことにより、作業や教材研究の時間を十分にとることができる点。	
コミュニケーション	普段、自宅にあり、見せられないものなどを見せることによる生徒とのコミュニケーションがあった点。
備品	在宅勤務が始まる前に、授業用のスタジオを構え、机とホワイトボードを設置できたので、教室からの配信とほぼ同じ形で配信できた。
	手元を映すカメラがあれば、黒板を使わずに授業ができる点。
	マルチモニターなど自宅ですでに整備している環境を使えたこと。
その他	自宅で、学校で行うことと同じことができたこと
	職員室ではできない＝普段できない作業ができる。(実技に関するメイキング動画作成や参考作品作成など)
	ありません。不安しかありませんでした。
	準備さえしっかりしておけば家から問題なく配信できることが分かってよかったです。
	場所の確保の観点で、授業の録画や授業がしやすかったです。

Q7 宅勤務期間中に自宅からオンライン授業を配信された先生方にお聞きします。自宅からの授業配信の実施で困った点があれば教えてください。

Q7	宅勤務期間中に自宅からオンライン授業を配信された先生方にお聞きします。自宅からの授業配信の実施で困った点があれば教えてください。(自由記載)
コミュニケーション	学年の立ち回りが把握しにくく、何か業務があった際に反応しにくかったこと。
	生徒が無断欠課した場合、授業をしつつ生徒自宅に電話をかけて事情を聴くのは困難。
	授業の実施そのものでは特になかった。授業以外の時間では、わざわざ電話やオンラインミーティングをするほどでもないが知っておいた方がいい些細な情報のやりとりが、職員室での対面勤務と違ってできないことがやや不便だった。
	各学年の細かい動きや時間割変更などの情報がない。須磨学園掲示板にアクセスできない。(チームズに設置される前)
	トラブル発生時に限らず、つねに取り残されているのではないかという不安感がありました。きっとWi-Fi接続状態の悪い生徒はこういう気持ちだったんだな、としみじみ感じました。
	出席の確認など、教員同士が遠隔で、連絡がスムーズにとれなかった点。 職員室の先生と気軽に連絡を取ることができず、「何か忘れていたら」「もしつながらなかつたら」という不安が常にありました。
生活との境界	一度、授業中に宅急便が届き、玄関ベルが何度もなったこと。
	家庭での環境音が流れてしまいました。(インターホンのチャイム)
	家族が自宅にいと、当人からは問題ないと言われるが、やはり気を遣う。
	プライバシー。
	どこから配信するかという点と、大きな声だと周りに響いてしまうのでその調整が必要な点。
ネット環境	雨の日など接続が不安定な時があった。
	回線の不安定さ。
	自宅のWi-Fi環境があまり良くなく、ネット回線が悪くなるが多かったこと
	WIFIの接続環境の問題で使用できる部屋が限られている中で、同時にオンラインで在宅ワークをする家族がいたので、やりにくかった。
	インターネットの接続状況がたまに悪化したとき、こちらの問題なのか生徒の問題なのかわからないことがある。
	自分の授業だけでなく、SHRや学年の授業にも出席をとったり、抜けた生徒を管理するためにZoomに入る必要があるので学校業務だけで自宅wifiの通信量を圧迫する。
	オンライン授業に耐えうるWifi環境が整っていないこと。
	家のネット環境が突然接続が切れてしまったこと。(授業に影響は出なかったが、ひやひやした。)
	Wi-Fiの接続不良 家の回線がうまくいかなくて、授業の音声途切れ途切れになったことが一度だけあった。

Q7 宅勤務期間中に自宅からオンライン授業を配信された先生方にお聞きします。自宅からの授業配信の実施で困った点があれば教えてください。

備品	設備不足
	授業に使うものを家に持って帰る必要があること
	黒板を手に入れるのが困難である。
	教材の多くが学校に置いてあるため、授業当日に改善案を思いついても実行できませんでした。
	黒板に比べてホワイトボードでは狭くなり、多く板書が書けないので、消してしまったときに生徒に授業が早いと言われてしまうことが多かったこと
	背景が真っ白のところがないので場所が困りました。(バーチャル背景で対応しました)
	私の場合、必要な機器を購入せず総務から借りていたので、在宅でオンライン授業をしようとする、色々な者を持って帰らなければならなかった。また、教材も紙媒体しかないものがあるので、荷物が多くなる。長期間の在宅勤務であれば問題無いが、特定の日にピンポイントで在宅と言われると、事前の準備が手間であった。
	広い板書スペースがないこと。
	ホワイトボードもたまたま家にあっただけで特に困った点はなかったが、スマートフォンを使ったため、発熱に苦慮した。
	備品購入などの環境整備
	黒板が無いので、黒板型の授業を実施していた自分としては家では撮影などが出来ないのが大きな問題であった。そのため、完全在宅勤務ではオンライン授業はやり切れなかった。
	黒板を大きく使えない、大きな声を出せないなどの、授業展開における不自由さ。
準備	また、あらかじめ自宅からの配信だとわかっていたら、準備や他の教員への協力要請などできるが、直前に決まるとよい授業はできない。実際に発生した問題のほとんどは、onlineか登校かという形式の問題ではなく、準備が不十分だったことに起因しているように感じる。
スペース	身体を十分に動かすことができるスペースがない点。 場所の確保
その他	当時はパワーポイントだったので、学校でやる場合とさほど変わりはありませんでした。しいて言えば、体を動かしたくて仕方がなくなりました。自分にはストレスが大きかったです。 ありません。 体に不具合が出たこと

Q8 在宅勤務でオンライン授業を配信される場合に、自宅に必要なと思われる備品を教えてください。

Q8	在宅勤務でオンライン授業を配信される場合に、自宅に必要なと思われる備品を教えてください。(自由記載)
	今後、今の時間割でオンライン授業配信を、という話になるのであれば、大きめのホワイトボードと筆記具一式は必要になるかと思います。以前に形に戻るのであれば、パワーポイントを作ったり、PDFに書き込んだりするほうが良いと考えているので、必要ありません。
	自宅にはパソコンしかないので、ビデオカメラとキャプチャーボード。
	安定した強い回線。
	専門用具一式。家が汚れないような養生。
	ホワイトボード、マイク、ipad
	実験器具
	ホワイトボード
	ウェブカメラ
	スキャナ
	使用頻度の高い教材のスペア
	カメラのスタンド、ホワイトボード
	スマホクリップ、スマホ三脚、ワイヤレスイヤホン、ワイヤレスイヤホンがうまくつながらなかったときのための有線イヤホン、ホワイトボード、実験授業を行う際に代用できるような100均のおもちゃ、オンライン授業の録画機能がうまくいかなかったとき用のビデオカメラ
	三脚
	よくわからない
	Webカメラ付きマイク(WEb授業に切り替わったところに家電販売店に行きましたが、どこも品切れでした)
	現在個人所有しているもので十分です。
	黒板、もしくは書画カメラ
	ビデオカメラ、三脚、キャプチャーボード(、ホワイトボード)
	タブレット+ペン
	マイク、スマホスタンド、ホワイトボードなど支給されたもので十分と感じた。
	とくにはありません。
	オンライン授業に耐えうる Wifi 環境(JR 高圧線の影響があり、備品だけでは限界がある)特にありません。
	学校のサーバーとつながる PC
	パッドなどを固定するもの。
	高機能の Wi-Fi ルーター
	ありません。
	配信に必要な機材は既に揃えているので、大幅なアップデートは現状必要はない。数学の

Q8 在宅勤務でオンライン授業を配信される場合に、自宅に必要なと思われる備品を教えてください。

	内容を充実させたい。
	パソコンカメラかタブレット。それを設置する器具(台?)
	スマホスタンドはあったほうが良かったなと思いました。
	iPad
	三脚
	Web カメラとマイクです。
	ホワイトボード、三脚、撮影機器、テレビとつなげるケーブルがあったほうがいい気がする
	パソコンにつけるカメラ、iPad 用の三脚
	ホワイトボード一式
	三脚
	ビデオカメラ
	特になし
	パソコン、マイク、カメラ(マイクとカメラは制携帯で代用)、三脚、ホワイトボード

Q9	今後のオンライン授業で思い描く展開があれば教えてください(自由記載)
インタラクティブ	ないに越したことはないです。授業よりも、配布や返却ができないこと、質問対応がしづらいことがけっこう苦しかったです。ネガティブなことばかりで申し訳ないですが、率直な感想です。何らかの方法でインタラクティブにテンポよく授業が進められるのであれば、参考にしたいと思います。
	一方通行ではなく、できるだけ対面で行うときと同じような場面が作り出せれば良いと思います。
	一度、教員側だけで解剖を行うことはあったが、生徒にも手元を移してもらい、一緒に解剖を行うこと。
	オンラインで、授業を受けている生徒全員が同じ空気感を感じ、さらに、全員の顔や表情が見えるような、横のつながりがある普通の授業と同じような授業ができるようになればいいなと思っています。
	グループワークなどができるような工夫を考えたい。
	いかにオンラインでテストを実施するか。生徒を当てる、答えさせるハードルを低くできるか。
	PC ソフト画面を共有し、宇宙の構成等のイメージを具体化していきたい。
	ブレイクアウトルームを使って、生徒同士が話し合ったり、積極的に活動を行えることができる授業を心がけて行いたい。
	対面ではあまり話すことが得意でない生徒が Zoom では意外とはきはき喋ることができたことが多々あったので、面談などのクラス運営にもうまく活用したいと考えています。
	より自由かつスムーズに生徒に発問する機能による、双方向を意識したオンライン授業の展開
録画・保存・配信	部活の公欠などが出た場合、授業を録画してあとから見せられる。
	映像のアーカイブ化。不登校生徒への配信
	対面授業を基本としつつも、長欠傾向の生徒へ向けた柔軟な配信。ただ授業担当者としては、現状対面授業を撮影して配信しても効果は薄いようにも感じる。
	授業動画を貯めておくことで、補講等に用いていきたい。”
	今後の展望ではないが、出欠確認の仕方の統一を求める。何をもって出席とみなすかについて統一見解を共有したい。そのうえで今後の展開を述べると、①オンラインなら参加できる不登校生に配信する、②難関大を志望する夙川生(当面わずかであろうが)にオンラインで講座に参加させる、③オンライン専門部を作って須磨学を全国展開するなど。
レベル別講座(志望校別のものや基礎内容など)を収録して、生徒にとって必要な内容によりフィットしたものを提供する。	

Q9 今後のオンライン授業で思い描く展開があれば教えてください

ハイブリッド	平常時にも併用できるようにする。
	オンラインでできる授業・講座はオンラインで行い、個別の生徒対応に時間を割けるようになると良い。
	生徒は自宅で動画を見て知識や情報を蓄え、学校に登校する日は生徒同士で協力したり、教員が生徒を助けたりする形で授業をおこなう反転授業が可能だと思います。
	授業ではありませんが、長期休暇中の学習サポートや講座、研修旅行の事前学習などにも活用ができるのではないかと考えている。
	生物の授業においては、知識の伝達量がどうしても多くなります。そこで、あらかじめ撮影しておいた知識事項の説明の動画を「予習」として配信し、対面授業では「グループワーク」「問題演習」「知識の確認テスト」など、対面授業の方が効果的であると考えられるものを行うという、映像と対面のハイブリッド授業を進めていこうと考えています。
	オンライン授業の精度を上げると考えると、一定のまとまった期間が全てオンラインだったらなと思います。特別授業期間中や夏休みもオンラインで授業や講座を展開できれば、オンライン授業の可能性が広がりそうだなと思っています。
	学校での対面授業との併用による、良い部分を切り取った実施が出来れば理想であるな、と考えています。対面授業により重要な公式の使い方や解法の解説を行い、オンライン授業を通して補講を行って問題の配信やテストの実施などをする、といった使い方が出来るのかな、と思います。
	その日の学校授業への復習として利用できるのかなと感じます。
デジタル教科書	web 教科書も活用しつつ授業展開をさらに進化させたい。
コミュニケーション	モニターを複数設置し、授業を受けている生徒を見渡せるようにしていきたい。
視覚効果	リアルタイムで物理実験を行うことで、現象を想像しやすくしたい。その際、ワイヤレスの小型カメラがあると大変助かる。
	カメラを複数用いることで、同じ実験を様々な視点から見る経験を提供したい。
	世の中に動画はあふれているが、リアルタイムで実験を見せたい。
出欠・提出物	Zoom での授業中に生徒にプリントが配布でき、解答が回収できるシステム。英語の音読など1人1人が録音したものが、教師に提出されると、コメントをつけて即座に返せる音声ファイルシステム。
	この Web 授業期間で、自分なりの方法を模索し、ある程度確立することができました。今後は、確認テストに工夫をすることで、知識が定着しているかどうかを図りたい。また、生徒のノート提出を forms で行っていたため、今後は assignment で行いたいです。
情報共有	色んな学年の生徒が、色んな教員の動画を観るようになること。

その他	Web 授業とはいえ、まだアナログ的要素が残っていると思われます。
	確認テストを forms で行ったとしても、やりっぱなしになりがちです。例えば生徒がアプリなどを用いることで、間違えた問題の管理ができたり、再テストを自動で行えたりできるシステムがあればさらに良くなると思いました。
	特にありません。(可能な限り、対面での通常授業を実施したい、という考えです。)
	現時点では特になし
	在宅と職場を行き来するのは厳しいので、職場でオンライン授業を提供するのを基本にしたい。
	やはり現場ならではの緊張感・空気感があってこそその対面授業なので、そこは別に考える必要性を感じる。
	今後再びオンラインに切り替わったとしても実技の授業時間に充てなければならないので、その中で工夫するとすれば教員の手元を写し、実技のデモンストレーションとすることなどが考えられる。
	授業進度を気にしなくて良いのであれば、いろいろな「遊び」は取り入れたいと思います が、準備時間の確保の問題は常に付きまとうかとは存じます。
	生徒の集中力を高めながら、より、オンラインでしかできないような授業展開を検討していきたいです。
	対面授業に勝るものにはならないと感じていますが、できるだけ近付ける努力を続けること。
	ハイブリッドは数学にはあまり向いていないのではないかと、思える。なかなか新たな事項の伝達と演習との配分が難しい。
	特になし
	オンライン環境が生徒募集にも重要な要素になるかもしれません。 その場合これまでのような募集の対象が兵庫県から全国へ広がるので、その分今までにはなく競争相手が多くなると思います。また機器などに費用が掛かる中、公立学校が負担が少なければそれも脅威です。